

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成29年度病虫害発生予報第2号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

予報第2号

ナシ黒星病の発生に注意!

今年のナシの生育は前年より遅く、黒星病の初発生も遅れています。しかし感染適期である4月中旬の降水量は多かったため、黒星病の感染リスクは高かったと考えられます。

本病の潜伏期間は2週間程度と長いため、現在発生していないほ場でも注意が必要です。園内の状況把握に努め、発生が認められる場合は以下の対策により2次感染を予防しましょう。

- ①発病葉と発病果の園外への持ち出し。
- ②必要に応じた補正防除。



葉柄に発生した黒星病



幼果に発生した黒星病

<予想される向こう1か月の天候(平成29年4月29日~平成29年5月28日)>

暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高いでしょう。

高気圧に覆われやすく、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込みです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高 50% 高い見込み	少 40 並 40 多20% 平年並か少ない見込み	少20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み

(福岡管区气象台 平成29年4月27日発表抜粋)

5月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	そうか病	やや多	やや多	やや多
ナシ	黒星病	並	やや多	並
カキ	フジコナカイガラムシ	並	並	並
果樹共通	チャバネアオカメムシ	—	—	並
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ	少 少	やや少 少	少 並
冬春イチゴ	ハダニ類	少(前年比)※	—	並

※果樹共通・チャバネアオカメムシの平年比について、現況は年次変動が大きいため前年比としている
 ※冬春イチゴ・ハダニ類(親株)は昨年より調査を開始したため、平年比は無し

作物別発生予報

- 注1) 予報の発生量は平年(福岡県の過去10年間)及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- 注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。それぞれの条件は、少発生(－)、やや少発生(－～±)、並発生(±)、やや多発生(±～＋)、多発生(＋)として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

【果樹：かんきつ】

1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(±～＋)。

発病葉率 0.7% (平年 0.2%、前年 0.1%)

発生ほ場率 45.5% (平年 15.0%、前年 9.1%)

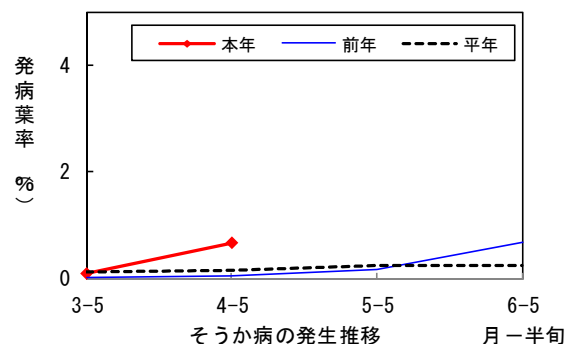
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は見つけ次第除去する。

ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p6の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



【果樹：なし】

1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.03% (平年0.07%、前年0.06%)

発生ほ場率 18.2% (平年10.3%、前年9.1%)

イ 感染が開始する4月中旬の降水量は多かった(+)。

ウ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

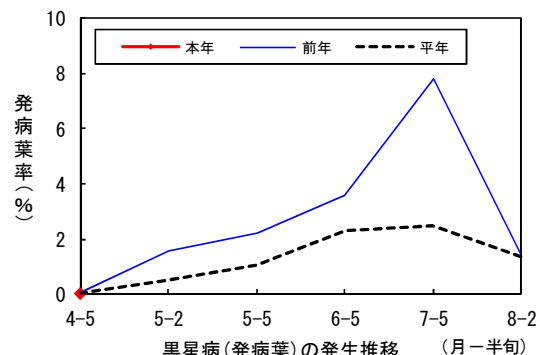
(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉や罹病果実は、見つけ次第除去し園外に持ち出す。

イ 必要に応じて補正防除を実施する。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。

エ 薬剤防除にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤を混合する。ただし、有機銅剤は効果が低下するため混用しない。



【果樹：かき】

1 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生枝率 1.0% (平年 2.7%、前年 2.1%)

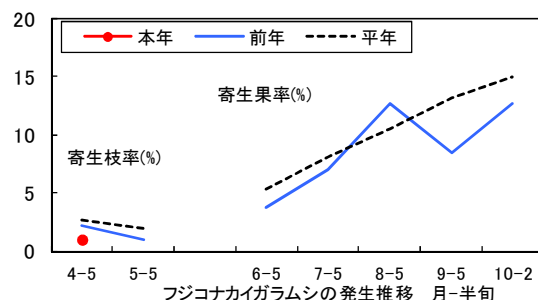
発生ほ場率 63.6% (平年 52.0%、前年 75.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 天敵への影響が比較的少ない薬剤で防除する。防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『病害虫・雑草防除の手引き』を参考にして下さい。

URL : http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/203227_51694561_misc.pdf



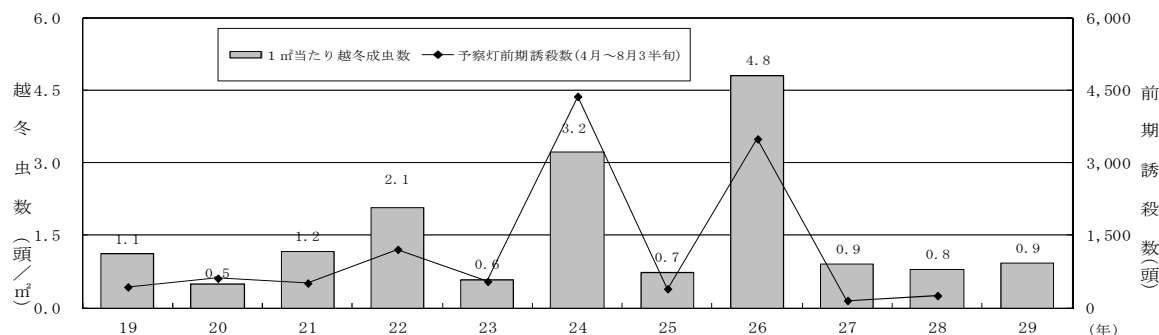
【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

(1) 予報の内容

発生量：前年・前々年並

(2) 予報の根拠

チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は平均0.9頭(前年0.8頭、前々年0.9頭)で、前年並である(±)。



チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬虫数と予察灯による前期(4~8月3半旬)誘殺数の年次推移注)予察灯による誘殺数は、県下6カ所平均。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認する。

イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め発生に応じて防除を行う。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや多	やや多	やや多	・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。
ミカンハダニ	並	並	やや少	
なし 赤星病	少	少	少	・赤星病の小生子飛散はほぼ終息していると思われるが、ビヤクシン上の降雨でぬれにくい場所に冬胞子堆がある場合は、降雨後に小生子が飛散する可能性があるため注意が必要である。 ・発生は生長点付近で多いので、かかりムラがないように防除する。
アブラムシ類	多	多	多	

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

寄生葉率 1.5% (平年 5.5%、前年 17.3%)

50葉当たり虫数 0.8頭 (平年 14.3頭、前年 61頭)

発生ほ場率 50% (平年：45.5%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)。

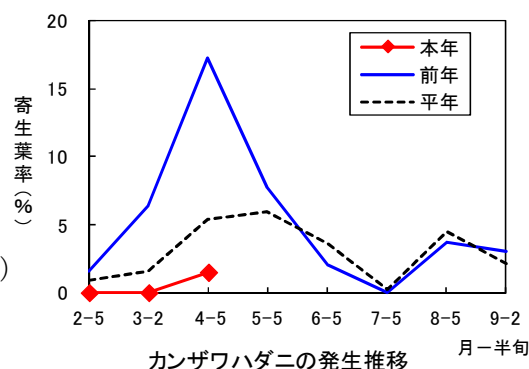
(3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は、効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。

イ 薬剤は、寄生の多い裾葉・葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p6の内容を確認の上、適切に実施する。



2 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

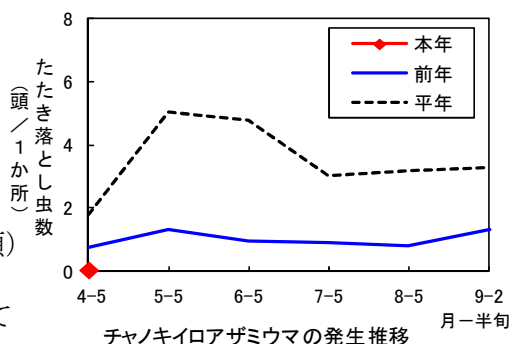
(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

たたき落とし虫数 0.1頭 (平年 1.8頭、前年 0.8頭)

発生ほ場率 25% (平年 62.2%、前年 66.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)。



(3) 防除上の注意

- ア 一部では多発している茶園も見られることから、発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。
- イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。

【茶：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
チャノミドリヒメヨコバイ	並	並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・発生状況に注意し、たたき落とし(B5判上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。 ・一番茶摘採後、又は二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。
チャトゲコナジラミ	やや多	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・チャトゲコナジラミは年3～4回発生する。防除適期は若齢幼虫発生期で、親世代成虫の発生が収まった頃である。第一世代幼虫の防除適期は、例年平坦地では5月中旬頃、山間地では5月下旬頃である。 ・幼虫は葉裏に寄生しているので、農薬の散布にあたっては、葉裏に十分にかかるように丁寧に散布する。

【野菜：冬春イチゴ】

1 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

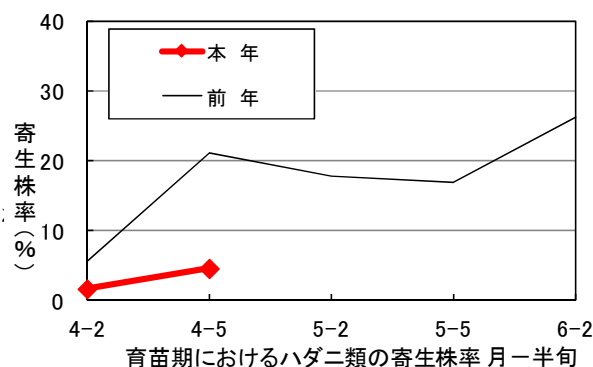
(2) 予報の根拠

- ア 4月5半旬調査の結果、発生量は前年より少なかった(－)。
発病株率 4.6% (前年21.2%)

- イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下位葉にはハダニ類が多く寄生しており、薬剤もかかりにくいため、摘葉を励行する。摘葉した葉は親株床に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- イ 薬剤防除は摘葉後に行うと効果的である。なお、摘葉後は炭疽病の薬剤防除も併せて行う。
- ウ 気門封鎖剤を含めた異なる系統の薬剤を、ローテーション散布する。
- エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p6の内容を確認の上、適切に実施する。



農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

福岡県病害虫防除所



最新の病害虫発生状況